

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】☐H23（A－Ⅱ）☒H24（Ⅰ）☐H24（Ⅱ）【AIMS】☐H25／愛媛，香川，高知大学

■プログラム名

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム

――以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

ガジャマダ大学（インドネシア），ボゴール農業大学（インドネシア），ハサヌディン大学（インドネシア）

■主な活動内容（概要）

日本・インドネシア6大学（愛媛大，香川大，高知大，ガジャマダ大，ボゴール農業大，ハサヌディン大）で構成するSUIJIコンソーシアムの下，学士，修士，博士課程における多層的な双方向の共同教育プログラムを実施している。学士課程では，6大学の学生が両国の農山漁村で約3週間にわたって共に滞在し，現実の課題に取り組みながら学ぶサービスラーニング・プログラム，修士課程では，日・伊で農学系分野における共同教育プログラムを設置することにより，共同学位（ジョイント・ディグリー）の修了を認定するプログラムを既に実施し，現在，博士課程における共同学位プログラムの開始を目指し準備中である。

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

○インドネシアに修士課程の学生を派遣する際，留学許可もしくは調査許可の取得に数ヶ月がかかる。そのため，学生募集・選考・決定から，インドネシアでの学期開始までの限られた期間内での取得が困難（決定以前に学生が独自に手続きをすすめるか，派遣後，ビザの切替手続きをすることになるがその手続きは極めて煩雑となる）。

○インドネシアからの留学ニーズは高く，優秀な学生も多いが，奨学金枠が現在のところ限られている。奨学金リソースの開拓が必要。

成功事例

○本プログラムへの参加を契機に，学士課程でインドネシアへの長期留学を希望する学生がはじめ，7名が平成26年度トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムに申請し，2名が合格に至った。修士課程では，共同学位プログラムを修了した日本人学生2名がそれぞれの留学経験を活かし，インドネシアで事業展開する企業への就職が決定した。

○プログラムに参加した日・伊の学生間でSNSを通じたネットワークが形成され，次期の派遣・受入学生のサポートのほか，プログラム参加をきっかけとした地域貢献活動がその後も展開している（小豆島での棚田保全活動など）。